

2020/02/21(金)11:16

| 授業科目名 | 英語学I | 授業形態 | 講義 |
|---|-----------------------|---------------------------------|---|
| 英語科目名 | English Linguistics I | 開講学期 | 前期 |
| 対象学年 | 1 | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 須藤 路子 | ナンバリング | 7001 |
| 科目担当者 | | | |
| 須藤 路子 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>全て英語で実施する授業である。英語学研究の諸分野を英語音声学、音韻論、形態論、語彙論、統語論、意味論の観点から概論し、各分野における重要概念、専門用語を紹介し、英語を分析・研究する英語学への入門を行う。社会・文化・コミュニケーションの観点から英語を分析し、言語が使用される社会と文化、言語の関係に関する研究を紹介する。英語の母語習得と第二言語習得に関する入門も行き、母語とは異なる第二言語における習得ストラテジーの観点から英語教育への応用についても検討する。併せて英語学と認知言語脳科学についても触れ、脳活性の観点から言語習得を考える。予習・復習については、第一回目の授業時にハンドアウトにより提示する。</p> | | | |
| 授業の達成目標 | | | |
| <p>英語学とは何か、英語学研究の諸分野にはどのようなものがあるか、ことばの研究は教育にどのように応用できるのか、英語の言語学である「英語学」の概論を習得することができる授業である。英語の音声、単語、文、談話における規則と構造を理解し、英語のメカニズムを分析するための基礎知識を習得する。併せて、英語学の英語教育への応用を理解し、最新の知見を得ることができる。英語で授業が実施されるので、英語のコミュニケーションカアップも図ることができる。</p> | | | |
| 成績評価方法 | | | |
| Group project (Group paperを含む) 40%、期末試験 60% | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は全て英語で実施される。質問は日本語も可とする。 2. 専門用語、概念は毎週復習し、次回授業時まで理解しておくこと。全て英語で専門用語を覚え、英語で説明できるようにする。 3. 積極的に授業に参加すること。 4. 履修者は30名以内とする。 | | | |
| テキスト・参考書 | | | |
| <p>《《テキスト》》 第一回目の授業に提示する。 《《参考書・参考資料等》》 『英語の音声習得における生成と知覚のメカニズム』須藤路子著(風間書房)、『日英対照 英語学の基礎』三原健一・高見健一著(くろしお出版)、『英語学概論(現代の英語学シリーズ 1)』安井稔著(開拓社)他</p> | | | |
| オフィスアワー | | | |
| 15: 10～16: 10 第2教育棟 msudou@juntendo.ac.jp | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | | | |
| 授業内で行う。 | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) |
| 1 | 須藤 路子 | オリエンテーション 英語と英語学の諸分野、成績評価 | 予習:英語学とはどのような学問なのか、何をこの授業で学ぶのか、学びたいのか、参考書を使用し、考えてくる。(90分) 復習:オリエンテーションにおける英語学の諸分野について、専門用語と分野の定義を英語で説明できるようにする。(90分) |
| 2 | 須藤 路子 | 音声学 調音音声学、音声器官、音声記号、母音と子音 | 予習:テキストの音声学のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した音声学に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 3 | 須藤 路子 | 音声学 音響音声学と英語教育、音響要因と英語教育への応用 | 予習:テキストの音響音声学のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した音響音声学に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |

| | | | |
|----|-------|--|---|
| 4 | 須藤 路子 | 音声学・音韻論 母音と母音体系、子音と子音体系、形態音素交替、音節とモーラ、アクセント、文アクセントとイントネーション、リズム | 予習:テキストの音声学・音韻論のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した音声学・音韻論に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 5 | 須藤 路子 | 英語のフォニックス―スベリングと発音― 不規則性、不規則性の原因、つづり字改良、表意性、規則性、歴史、アメリカ英語のつづり字、つづり字発音 | 予習:テキストのスベリングと発音のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習したスベリングと発音に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 6 | 須藤 路子 | 形態論・派生形態論 語形成、派生と複合 | 予習:テキストの形態論のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した形態論に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 7 | 須藤 路子 | 語彙 語彙の組織、借用語、語彙の変化 | 予習:テキストの語彙のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した語彙に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。また、語彙力アップにつながる接頭辞・接尾辞を覚える。(90分) |
| 8 | 須藤 路子 | 統語論―生成文法― 句構造、名詞句、移動 | 予習:テキストの統語論のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した統語論に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 9 | 須藤 路子 | 統語論―機能的構文論― 文の情報構造、視点 | 予習:テキストの統語論(文の情報構造・視点)のチャプターを読んでくる。復習:授業で学習した統語論に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 10 | 須藤 路子 | 意味論―語の意味論・文の意味論 語の意味、意味関係、多義、語用論、会話の含意 | 予習:テキストの意味論のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した意味論に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 11 | 須藤 路子 | 英語の歴史と英語の現況―英語の背景と時代区分― | 予習:テキストの英語の歴史と英語の現況のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した英語の歴史と英語の現況に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 12 | 須藤 路子 | 社会言語学―社会・文化・コミュニケーション― 言語能力、伝達能力、言語の相対性と普遍性 | 予習:テキストの社会言語学のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した社会言語学に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 13 | 須藤 路子 | 社会言語学と英語教育 言語教育と社会、学習目標と到達目標 | 予習:テキストの英語教育のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した社会言語学と英語教育に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 14 | 須藤 路子 | 英語の母語習得と第二言語習得 母語と第二言語、Critical Period Hypothesis、学習ストラテジー | 予習:テキストの英語の母語習得と第二言語習得のチャプターを読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した英語の母語習得と第二言語習得に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| 15 | 須藤 路子 | 英語と認知言語脳科学 社会性能力、言語能力、脳活性 | 予習:授業で配布された英語と認知言語脳科学に関する英語論文を読んでくる。(90分) 復習:授業で学習した英語の母語習得と第二言語習得に関する専門用語と概念を理解し、覚えてくる。(90分) |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2020/02/26(水)15:22

| 授業科目名 | 英語学II | 授業形態 | 講義 |
|--|------------------------|---|---|
| 英語科目名 | English Linguistics II | 開講学期 | 後期 |
| 対象学年 | 1 | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 山下 巖 | ナンバリング | 7002 |
| 科目担当者 | | | |
| 山下 巖 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 講義の前半は、product-basedとprocess-basedをkeywordとして、文法概念を今一度整理し直し、言語使用(language use)を意識した文法とはどのようなものかを学ぶ。講義後半は、実際に文法をどのように教えるかについて考えてみる。とくに、teaching grammar as product, teaching grammar as process, teaching grammar as skillの視点から、教材作成を試みディスカッション形式によるそれら教材の長短について検討を試みる。 | | | |
| 授業の達成目標 | | | |
| 文法に対する様々な見方を提示、さらにそれらを英語教育の立場から検証し、効果的な文法学習の手法について考えてみる。 | | | |
| 成績評価方法 | | | |
| 授業参加やディスカッションへの姿勢40%、作成した教材の評価20%、試験40%で評価を行う | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | | | |
| 将来教職に就きたいものを対象とする。 テキストは指示のあった部分を読んでくること。 英文読解の授業ではない。 この授業は、何らかの知識を伝授することを目的とするわけではなく、文法とはいったい何なのかに関する考察を試みる授業であるので、積極的な発言を歓迎する。 | | | |
| テキスト・参考書 | | | |
| 教材はこちらで用意いたします。 | | | |
| オフィスアワー | | | |
| 授業の前後を基本とする。 | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | | | |
| 授業内で適宜返却していく。 | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) |
| 1 | 山下 巖 | 文法とは何か、文法記述の問題点について考えてみる (1)英語母語話者はどうしているか (2)英語学習者は何を学ぶべきか | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:高校までに習った文法の役割について考えてみる。(90分) |
| 2 | 山下 巖 | productとしての文法を考える (1)形式文法(formal grammar)の問題点を探る (2)文法と意味を考える…… | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:意味と文法はどちらが優先するものなのかをまとめる。(90分) |
| 3 | 山下 巖 | 文法と文脈(context)について考える | 予習:テキストをしっかりと読み込む(90分) 復習:コンテキストが果たす役割について考える(90分) |
| 4 | 山下 巖 | processとしての文法を考える (1)文法とスキーマ (2)コミュニケーションを念頭に置いた文法…… | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:コミュニケーションを念頭に置いた場合の文法のあり方について考える。(90分) |
| 5 | 山下 巖 | 文法と言語学習 (1)productとしての文法を教えることにおける留意点 (2)コミュニケーション主体の授業における文法学習とは | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:コミュニケーション中心の授業方法を取った場合、どのように文法を扱えばよいかを発表する。(90分) |
| 6 | 山下 巖 | コミュニケーションと文法学習 | 同上 |

| | | | |
|----|------|--|--|
| 7 | 山下 巖 | 文法学習における3つのアプローチの紹介 (1)productとしての文法学習 (2)processと手の文法学習 (3)skillとしての文法学習 | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:3つのアプローチの比較表を作成する。(90分) |
| 8 | 山下 巖 | productとしての文法学習 | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:productとしての文法学習はどういった場面で有効かを考える。(90分) |
| 9 | 山下 巖 | productとしての文法学習の実践例を作成し、それについてディスカッションを行う | 予習:ディスカッションの準備を行う(90分) 復習:振り返りを行う(90分) |
| 10 | 山下 巖 | processとしての文法学習 processとして文法を捉えた場合、どのような教材作成が可能か、学生に実際に作成を試み、productとしての文法を学習する場合と何がどのように異なるかについて、ディスカッションを行う | 予習:ディスカッションの準備を行う(90分) 復習:振り返りを行う(90分) |
| 11 | 山下 巖 | skillとしての文法学習 | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:skillとしての文法学習の概念をまとめる。(90分) |
| 12 | 山下 巖 | フォーカスオンフォームとフォーカスオンフォームズの違いとは何か (1)形式-意味-機能の結びつきのための新しいアプローチ (2)明示的(explicit)な文法学習と暗示的(implicit)な文法学習 | 予習:テキストをしっかりと読む(90分) 復習:F on Fを活用した授業展開法を問がて見る。(90分) |
| 13 | 山下 巖 | 明示的、暗示的な文法教材作成を試み、それについての発表:ディスカッションを行う | 予習:明示的、暗示的な文法指導教材を実際に作成してくる(90分) 復習:授業の振り返りを行う(90分) |
| 14 | 山下 巖 | 明示的、暗示的な文法教材作成を試み、それについての発表:ディスカッションを行う | 予習:明示的、暗示的な文法指導教材を実際に作成してくる(90分) 復習:授業の振り返りを行う(90分) |
| 15 | 山下 巖 | 明示的、暗示的な文法教材作成を試み、それについての発表:ディスカッションを行う | 予習:明示的、暗示的な文法指導教材を実際に作成してくる(90分) 復習:授業の振り返りを行う(90分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2020/07/30(木)11:11

| | | | | |
|-----------------------------|--|---|---|------|
| 授業科目名 | 英語学III | | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Linguistics III | | 開講学期 | 前期 |
| 対象学年 | 2 | | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 吉野 康子 | | ナンバリング | 7003 |
| 科目担当者 | 吉野 康子 | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、英語の5つの言語材料(文字・音・語彙・文法・表現)に関する知識を深め、日英語の比較の視点から再考し、合わせて英語力・英語指導力の向上に役立つことを実践する。英語教育に必要な理論を習得するとともに、受講者がこれまで学んできた語彙や文法等を新たな視点で見直し、どのように生徒に伝えるかに焦点を当て、深めていきたい。講義型の授業を行うだけでなく、受講者が多くの文献に触れ、発表し合い、言語に対して気づきや興味をもち、発展的な思考をすることを旨とする。 | | | |
| 授業の達成目標 | 1. 英語の5つの言語材料(文字・音・語彙・文法・表現)の知識を深め、英語力を強化する。 2. 英語教育に必要な理論を習得し、生徒にわかりやすく伝える英語指導力を養う。 | | | |
| 成績評価方法 | 授業参加度(20%)、課題レジュメ・発表(20%)、授業内試験(60%)の結果に基づき総合的に評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。 | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) 英語教育の視点を重視した英語学の授業である。中学生、高校生の英語に関する「なぜ」にどう答えるかを中心に、発表形式を取る。受講者は、自分の興味のある言語材料に関して、積極的に調査・発表し、仲間の発表を真剣に聞き、意見交換をすることを望む。 | | | |
| テキスト・参考書 | テキストは使わず、毎回、自作のハンドアウトを配布する。テーマに沿った参考文献は、その都度紹介する。 安藤貞雄・澤田治美編『英語学入門』(開拓社)、西松義弘編『英語学』概論(くろしお出版)など。 | | | |
| オフィスアワー | 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照のこと。 | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | 授業内で適宜返却する。 | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) | |
| 1 | 吉野 康子 | 初回ガイダンス (1) 授業計画、授業の進め方、受講にあたっての留意点を説明する。 (2) 英語学I、IIの授業において、「何を学び、何を考えたか」をグループで話し合い、報告し合う。 | 【予習】シラバスの内容をよく確認しておくこと(90分) 【復習】講義内に配布する授業計画を読み、英語の言語材料(文字・音・語彙・文法・表現)の中で、自分が調査・発表する分野を考えておく。(90分) | |
| 2 | 吉野 康子 | 英語学と英語教育 (1) 英語学の位置づけ:英語学とは何か (2) 言語材料の概観:言語材料(文字・音・語彙・文法・表現)を扱う条件 (3) 中・高の学習指導要領における言語材料論 | 【予習】中・高の学習指導要領における言語材料の扱いを調べてくる。(90分) 【復習】自分が「なぜ・・・」を解明したい言語材料をしぼり、調査する。(90分) | |
| 3 | 吉野 康子 | 文字論(1) (1) 文字とは何か:英語のアルファベットの書体・字体 (2) 学校教育で取りあげるべき書体 | 【予習】文字と記号の違い、文字の便利性、差別性を考えてくる。(90分) 【復習】文字に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) | |
| 4 | 吉野 康子 | 文字論(2) (1) 英語のアルファベットの起源、日本語との類似点 (2) 学校教育における文字指導 | 【予習】英語のアルファベットの起源を調べ、日本語との類似点を考えてくる。(90分) 【復習】中学校での英語の文字指導はどうあるべきかをまとめる。(90分) | |

| | | | |
|----|-------|---|--|
| 5 | 吉野 康子 | 音声論 (1) (1) 音声とは何か、音声の要素、音声指導と学校教育 (2) 英語の音、日本語との比較、発音記号、英音/米音、代替音の使用 | 【予習】英語の音の特徴、日本人にとって難しい音をまとめてくる。(90分) 【復習】音声に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 6 | 吉野 康子 | 音声論 (2) (1) ストレス(アクセント)、リズム、イントネーション (2) フォニックス(綴りと発音の関係) | 【予習】日本語と英語のストレスの違い、機能語の弱音化の理由をを考えてくる。(90分) 【復習】フォニックスの規則をままとめ、教えることの是非論を考え、まとめる。(90分) |
| 7 | 吉野 康子 | 語彙論 (1) (1) 日英語の意味のずれ: ずれの内実、ずれの大きさ、その文化に特有な語彙 (2) 日英語の語形成: 複合語、合成語、転義、母音変化、子音変化、音脱落、音挿入、異分析、音転位、切り株語、逆成、頭尾結合、頭字語 | 【予習】日英語で意味がずれるもの、日英語それぞれの複合語を調べてくる。(90分) 【復習】語彙に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 8 | 吉野 康子 | 語彙論 (2) (1) 日英語の部首と語根、語源 (2) 英語と米語、 (3) 学校教育における英語語彙の分量、基本語の考え方、語彙の思想性 | 【予習】英語の基本語とは何かを考え、具体的にまとめてくる。(90分) 【復習】語彙に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 9 | 吉野 康子 | 語彙論 (3) (1) 和製英語 (2) 英語との接触史、外来語の日本語への適用 | 【予習】日常よく使用する和製英語をあげ、意味のずれをまとめる。(90分) 【復習】語彙に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 10 | 吉野 康子 | 文法論 (1) (1) 文法とは何か: 文法の根幹、意義 (2) 日本の英語教育における文法の扱い | 【予習】自分の経験した最も印象的な文法指導例をまとめ、考察する。(90分) 【復習】文法に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 11 | 吉野 康子 | 文法論 (2) (1) 異言語教育における文法の必要性 (2) 認知的指導とは何か | 【予習】日本の英語教育における文法の必要性を考えてくる。(90分) 【復習】文法に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 12 | 吉野 康子 | 文法論 (3) (1) 英語の「なぜ」に答える意義 (2) 文法の「なぜ」に答える枠組み: 自然現象、辞書の調査、英語史、理屈、原義、文法用語、比較文化的な視点 | 【予習】英語の「なぜ」に答える意義を考えてくる。(90分) 【復習】文法に関する「なぜ」の課題を調べ、説明をまとめる。(90分) |
| 13 | 吉野 康子 | 表現論 (1) イディオムの扱い、コロケーション、意味の違い (2) スピーチレベル、男ことば、女ことば、英語のバリエーション | 【予習】イディオムとコロケーションの違いを考えてくる。(90分) 【復習】英語学の授業で学習したことを復習し、試験の準備をする。(90分) |
| 14 | 吉野 康子 | 文字論、音声論、語彙論、文法論、表現論の総括 (1) 発表した「なぜ」に関する質疑・応答 (2) 試験 | 【予習】授業で発表した「なぜ」に関して疑問がある場合はまとめておく。(90分) 【復習】自分で調べた「なぜ」に関するレポートを提出できる形にまとめる。(90分) |
| 15 | 吉野 康子 | まとめ (1) 試験の返却、解説、フィードバック (2) 英語学の授業において考えたことの意見交換 | 【予習】英語学の授業で考えたことをまとめてくる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行う。(90分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2020/07/30(木)11:20

| | | | | |
|-----------------------------|--|---|--|------|
| 授業科目名 | 英語音声学 | | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Phonetics | | 開講学期 | 前期 |
| 対象学年 | 2 | | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 浅野 恵子 | | ナンバリング | 7004 |
| 科目担当者 | 浅野 恵子 | | | |
| 授業の概要 | <p>音声学の定義、研究領域、発生・発音の仕組み、音声記号、音素と異音、文節素(母音と子音)、方言・母語話者・英語学習者による音声の相違、英語と他言語の音声特徴の相違、世界的な英語使用圏における通時的変化を扱う。基礎的な概念を踏まえた後、超文節音素についても扱う。具体的には、音節、語強勢とリズム、弱化、同化、イントネーションなどである。</p> <p>また、音響音声学と聴覚音声学についてもふれる。音響分析において、音響ソフトを用い、PC上で「音の視覚化」を意識した講義を行う。聴覚音声学においては、心理学、社会学や生理学などの学際的領域の最新の研究結果も説明しながら講義を行う。</p> <p>講義形式が中心ではあるが、実習形式を併用し、テーマによっては授業内でディスカッション等も行なう。</p> | | | |
| 授業の達成目標 | <p>英語音声学を通して、言語音、特に英語の生成(どのように音は作られるのか)とその知覚(どのように音を聞きとっているのか)について考える。また、発音(母音・子音)の仕組み・仕方を理解し、それらの音を聞き分け、発音記号で書けるようにする。世界における英語音声のヴァリエーションを認識し、歴史的英語音声の変化も学習する。さらに、英語音声の理解をさらに深めるために他の言語と比較対照を行っていく。</p> <p>基本的な概念を習得したのちに、英語コミュニケーションに欠かせない、イントネーション、リズム、強勢(アクセント)等を理解し、英語言語4技能に反映させることができるようにする。その際に必要な音変化の規則を習得することでさらなる英語音声の理解を促すようにする。さらに学際的領域の説明を加えることによって、心理的側面が英語音声の聴き取りに与える影響などを実践的に体験することも試みる。</p> | | | |
| 成績評価方法 | <p>※1/3以上欠席した学生には定期試験受験は認めない</p> <p>授業への参加状況(講義形式であるが実習形式でもあるため授業中参加を重視する)20%</p> <p>課題提出(不定期に課題を課す)30%、定期試験・(筆記、発音の口頭試験の両方を課す)50%</p> | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | <p>教職課程を履修する学生を優先する。</p> <p>積極的に授業に参加し、音、全般に興味を持っている受講者が望ましい。</p> <p>人数制限20名ただし、教職課程を履修数3年生がこの数を超えた場合は人数を増やす可能性あり。</p> | | | |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト:授業中に指示する</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>浅野恵子: シャドーイング&ディクテーション, DHC出版, 東京, 1-172, 2004</p> <p>浅野恵子: 英語リスニング基礎トレbook, DHC出版, 東京, 1-192, 2008</p> | | | |
| オフィシアワー | <p>授業の前後を基本とする。(連絡先: keasano@juntendo.ac.jp)</p> | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | <p>授業内で適宜返却する。</p> | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) | |
| 1 | 浅野 恵子 | ガイダンス 講義の概要説明、学生の評価方法、教科書・参考文献の説明 | 【予習】音声学においてどのようなことを学習したいかを自分なりに考えてくる。(90分) 【復習】ガイダンスにおいて説明した分野についてテキストを参照して確認する。(90分) | |
| 2 | 浅野 恵子 | 言語学の分野としての位置づけ、各言語学の分野と音声学の関連とその定義 音声学の研究領域(調音音声学、聴覚音声学、音響音声学) | 【予習】テキストの章をよく読んでおく。(90分) 【復習】音声学の概略を専門用語と共に覚えてくる。(90分) | |
| 3 | 浅野 恵子 | 発生のメカニズム(呼気流、発声器官、調音) | 【予習】テキストの対象章を読んでおく。(90分) 【復習】専門用語と機構を覚える。(90分) | |
| | | 調音のメカニズム(調音点・調音法、口 | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) | |

| | | | |
|----|-------|-------------------------------------|---|
| 4 | 浅野 恵子 | 腔・鼻腔、母音・子音 | 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音できるようにする。(90分) |
| 5 | 浅野 恵子 | 母音の調音(単母音、二重母音) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音できるようにする。(90分) |
| 6 | 浅野 恵子 | 子音の調音(鼻音、口音の相違、破裂音、摩擦音、接近音、流音等) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音できるようにする。(90分) |
| 7 | 浅野 恵子 | 英語の方言、世界英語の多様性、母語話者と学習者の英語の相違 | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音してみる。(90分) |
| 8 | 浅野 恵子 | 通時的音変化と英語音声変化の種類 | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音できるようにする。(90分) |
| 9 | 浅野 恵子 | 音節:音節構造ときこえ(音の固有の大きさ、高さ、長さ) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を認識できるようにする。(90分) |
| 10 | 浅野 恵子 | 語強勢(語強勢と語形成・音節核との関連、複合語の強勢、強勢移動) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音してみる。(90分) |
| 11 | 浅野 恵子 | 話し言葉で生じる音変化(弱形、縮小形、同時調音、同化) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音してみる。(90分) |
| 12 | 浅野 恵子 | イントネーション(音調句、音調核、イントネーションパターン) | 【予習】テキストの章をよく読んで、発音してみる。(90分) 【復習】専門用語を覚え、学習した音を発音してみる。(90分) |
| 13 | 浅野 恵子 | 音響音声学(音響ソフトを用いてPCによる音響分析、音声計測機器の説明) | 【予習】テキストの章をよく読んでおく。(90分) 【復習】専門用語を覚え、機器を使用できるようになる。(90分) |
| 14 | 浅野 恵子 | 聴覚音声学(学際的領域分野からの英語音声研究) | 【予習】テキストの章をよく読んでおく。(90分) 【復習】専門用語を覚え、今まで学習した音声を再認識する。(90分) |
| 15 | 浅野 恵子 | 音変化の規則(音韻論的観点、音声学的観点からの規則性) | 【予習】テキストの章をよく読んでおく。(90分) 【復習】専門用語を覚え、今まで学習した音声を再認識する。(90分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2020/07/30(木)11:19

| | | | | |
|-----------------------------|--|--|--|------|
| 授業科目名 | 英語科指導法I | | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Teaching Methodology I | | 開講学期 | 前期 |
| 対象学年 | 2 | | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 吉野 康子 | | ナンバリング | 7005 |
| 科目担当者 | 吉野 康子 | | | |
| 授業の概要 | <p>中学校・高校などの英語科教員志望者を対象として、授業を行うために必要な知識と技能を育成していく授業である。学習指導要領に基づいて英語教育目標、内容、指導上の留意点を学ぶことから始め、中学校の英語の授業を想定して、授業の組み立て方を具体的に学んでいく。さらに、教科書を使用して教材研究と指導案の作成、模擬授業を行い、相互に授業観察を行う活動を通じて、授業の方法を総合的に学ぶ。</p> | | | |
| 授業の達成目標 | <p>1. 英語教員として必要とされる、基本的な指導技能を養う。 2. 英語教員として必要とされる、日英語の知識、言語観を養う。</p> | | | |
| 成績評価方法 | <p>授業参加度・課題提出物(30%)、模擬授業(20%)、授業内試験(50%)の結果に基づき総合的に評価する。なお、3回以上の欠席は、単位履修が不可能となる。</p> | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | <p>中学に焦点を当て、実践を交えながら英語教授法を学ぶ授業であるので、受講生同士の模擬授業に積極的に協力、参加、議論することを望む。シラバスを見て、テキストの次の単元を必ず読み予習しておくことが必須である。</p> | | | |
| テキスト・参考書 | <p>『総合的英語科教育法』村野井仁他・成美堂 『New Crown English Series I-III』高橋貞夫他・三省堂 『中学校学習指導要領』東山書房、『高等学校学習指導要領』東山書房 * 学習指導要領は文科省HPからダウンロード可能</p> | | | |
| オフィスアワー | <p>専任教員のオフィスアワー一覧表を参照のこと。</p> | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | <p>次の授業時に返却、フィードバックする。</p> | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) | |
| 1 | 吉野 康子 | <p>初回ガイダンス (1) 授業計画、授業の進め方、受講にあたっての留意点を説明する。 (2) 自身の中学校の授業経験、英語教育に関して話し合う。</p> | <p>【予習】シラバスの内容をよく確認しておくこと(90分)。テキストを持参すること。 【復習】講義内に配布する授業計画を読んでくる。(90分)</p> | |
| 2 | 吉野 康子 | <p>英語教育の目的:なぜ英語を学ぶのか (1) 英語学習の意義 (2) 教育の目的と英語教育</p> | <p>【予習】ハンドアウトの「英語教育の目的」を読んでくる。(90分) 【復習】中学生の質問に答える課題をまとめる。(90分)</p> | |
| 3 | 吉野 康子 | <p>英語教育の指導目標(1): 学習指導要領とは何か (1) 学習指導要領が示す基本方針 (2) 学習指導要領の変遷</p> | <p>【予習】現在の学習指導要領を読んでくる。(90分) 【復習】学習指導要領に関して渡したハンドアウトの課題をまとめる。(90分)</p> | |
| | | <p>英語教育の指導目標(2):何をどこまで教えるか (1) 学習指導要領における英語各科目</p> | | |

| | | | |
|----|-------|--|--|
| 4 | 吉野 康子 | の目標 (2) コミュニケーション能力の構成要素: a. 言語能力 b. 方略能力 c. 認知能力 d. 世界事情に関する知識・考え e. 態度・姿勢 | 【予習】ハンドアウトの「英語教育の指導目標」を読んてくる。(90分) 【復習】コミュニケーション能力に関してまとめる。(90分) |
| 5 | 吉野 康子 | 英語指導方法 (1): 英語指導目標 (1) 目標設定と指導および評価 (2) 年間指導計画 | 【予習】ハンドアウトの「英語指導方法」を読んてくる。(90分) 【復習】中学校における到達目標をまとめる。(90分) |
| 6 | 吉野 康子 | 英語指導方法 (2): 指導過程 (1) 理解活動と表現活動を融合した指導過程 (2) 理論と実践を融合させるため、実際の現場でコミュニケーション活動中心の指導を行っているゲストスピーカーによる講演 | 【予習】実例のハンドアウトの「英語指導方法」を読んてくる。(90分) 【復習】ゲストスピーカーの講演を踏まえて、重視する指導過程別の授業形態をまとめる。(90分) |
| 7 | 吉野 康子 | 英語指導方法 (3): 授業の流れから見た指導技術・主な指導技術 (1) 挨拶、ウオーミング・アップ、復習、オーラル・イントロダクション、新出言語項目の導入、理解活動、読後活動・表現活動 (2) クラスルーム・イングリッシュ、発音指導、文字指導、語彙指導、文法指導 | 【予習】前回のまとめをふまえて、更なる実例のハンドアウトの「英語指導方法」を読んてくる。(90分) 【復習】指導技術の中で、マイクロティーチングを行う予定の指導技術をより調査し、まとめる。(90分) |
| 8 | 吉野 康子 | 英語科学習指導案 (1) (1) 中学校2年生「英語」: 技術統合型の授業 (2) 学習指導案モデルの検討 | 【予習】ハンドアウトの「英語科指導案の作成の仕方」と「英語科指導案」を読んてくる。(90分) 【復習】授業中に配布の学習指導案を比較・検討する。(90分) |
| 9 | 吉野 康子 | 英語科学習指導案 (2) (1) 英語科学習指導案作成上の留意点 (2) グループで項目別授業実演の検討・準備 | 【予習】学習指導案のモデルを作成してくる。(90分) 【復習】項目別の授業実演をまとめる。(90分) |
| 10 | 吉野 康子 | 模擬授業 (1) (1) 授業実演項目: 復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動、題材の深化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 11 | 吉野 康子 | 模擬授業 (2) (1) 授業実演項目: 復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動、題材の深化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 12 | 吉野 康子 | 模擬授業 (3) (1) 授業実演項目: 復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動、題材の深化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| | | 模擬授業 (4) | |

| | | | |
|----|-------|--|--|
| 13 | 吉野 康子 | (1) 授業実演項目:復習、新語導入、 オーラル・イントロダクション、内容理 解、文法、音読、言語活動、題材の深 化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 14 | 吉野 康子 | 英語教育の目的、指導目標、指導方法 の総括 (1) 学習指導案に関する質疑・応答 (2) 試験 | 【予習】この学期に学んだことを見直し、自分の指導案の作成も考 える。(90分) 【復習】学習指導案を振り返る。(90分) |
| 15 | 吉野 康子 | まとめ (1) 試験の返却、解説、フィードバック (2) 英語科指導法 I の授業において考 えたことの見直し | 【予習】英語科指導法の授業で考えたことをまとめてくる。(90分) 【復習】総振り返りを行うこと(90分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2020/07/30(木)11:12

| | | | | |
|-----------------------------|---|--|--|------|
| 授業科目名 | 英語科指導法II | | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Teaching Methodology II | | 開講学期 | 後期 |
| 対象学年 | 2 | | 単位数 | 2 |
| 科目責任者 | 吉野 康子 | | ナンバリング | 7006 |
| 科目担当者 | 吉野 康子 | | | |
| 授業の概要 | 英語科指導法 I の授業や授業実践を踏まえ、教育実習を前提として、指導案の作成や模擬授業を中心に進める授業である。中学校の英語の授業を想定して、実践的な英語力も高めていく。また英語教師として必要な評価、テスト、教授法、英語教師論等の理論的構築も合わせて行う。 | | | |
| 授業の達成目標 | 1. 英語教員として必要とされる教授法の知識、指導技能を養う。 2. 異文化間教育の知見を英語教育に活かし、英語教員としての資質を養う。 | | | |
| 成績評価方法 | 授業参加度・課題提出物(30%)、模擬授業(20%)、授業内試験(50%)の結果に基づき総合的に評価する。なお、3回以上の欠席は、単位履修が不可能となる。 | | | |
| 履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと) | 中学に焦点を当て、実践を交えながら英語教授法を学ぶ授業であるので、受講生同士の模擬授業に積極的に協力、参加、議論することを望む。シラバスを見て、事前学習用のハンドアウトを必ず読み予習してくることが必須である。 | | | |
| テキスト・参考書 | 『総合的英語科教育法』村野井仁他・成美堂 『New Crown English Series I - III』高橋貞夫他・三省堂 『中学校学習指導要領』東山書房、『高等学校学習指導要領』東山書房 * 学習指導要領は文科省HPからダウンロード可能 | | | |
| オフィスアワー | 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照のこと。 | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 | 次の授業時に返却、フィードバックする。 | | | |
| 授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】 | | | | |
| 授業回数 | 担当 | 授業内容 | 授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示) | |
| 1 | 吉野 康子 | 初回ガイダンス (1) 授業計画、授業の進め方、受講にあたっての留意点を説明する。 (2) 夏休みの課題に関して、自分ごとのように取り組んだか話し合う。 | 【予習】シラバスの内容をよく確認しておくこと(90分)。テキストと夏休みの課題を持参すること。 【復習】講義内に配布する授業計画を読んでくる。(90分) | |
| 2 | 吉野 康子 | 英語評価と言語テスト (1) 言語テストの目的と種類と役割、条件 (2) 英語能力の捉え方と観点別評価 (3) 言語テストの作成と実施 (4) 言語テスト・評価のための統計初歩 | 【予習】ハンドアウトの「英語評価と言語テスト」を読んでくる。(90分) 【復習】指定された単元の到達度を測る言語テストを作成する。(90分) | |
| 3 | 吉野 康子 | 第2言語習得理論 (1) インプットの役割 (2) インタラクションの役割 (3) アウトプットの役割 (4) 文法指導の役割: フォーカス・オン・フォーム、明示的的文法知識の役割、処 | 【予習】ハンドアウトの「第2言語習得理論」を読んでくる。(90分) 【復習】これまでの自分の第2言語習得を振り返り、学んだ理論との関連性をまとめる。(90分) | |

| | | | |
|----|-------|--|---|
| | | 理可能性理論 (5) 社会文化理論 (6) 関与負荷仮説 (7) 第二言語習得の認知プロセス | |
| 4 | 吉野 康子 | 外国語教授法 (1) 文法訳読法 (2) 直接教授法 (3) オーラル・メソッド (4) オーラル・アプローチ (5) コミュニカティブ・アプローチ (6) ナチュラル・アプローチ (7) タスク中心教授法 (8) 内容中心教授法 *それぞれの指導原理と主なねらい、指導方法の概略、特徴、問題点、英語科教育への適用を扱う。 | 【予習】ハンドアウトの「外国語教授法」を読んでくる。(90分) 【復習】これまでに自分が受けてきた英語の授業は、どのような教授法に基づくものであったか分析する。(90分) |
| 5 | 吉野 康子 | 英語教師論:プロの英語教師になるために (1) 英語教師の役割 (2) 英語教師に必要な資質と技能 (3) 英語教師に必要な指導技能 (4) 英語教師に必要な資質と技能チェックリスト | 【予習】ハンドアウトの「英語教師論」を読んでくる。(90分) 【復習】英語教師としての力量を高めるため、何をすべきか具体的プランとまとめる。(90分) |
| 6 | 吉野 康子 | 小学校外国語教育 (1) 世界の小学校外国語教育の状況 (2) 日本の小学校における外国語教育 (3) 小学校学習指導要領における外国語目標 (4) 小学校の外国語に関する検討事項 | 【予習】ハンドアウトの「小学校外国語教育」を読んでくる。(90分) 【復習】小学校で授業をするために必要な技術、能力、知識をまとめる。(90分) |
| 7 | 吉野 康子 | 英語教育と異文化 *ゲストスピーカーによる講演 「英語教育とユニバーサルデザイン」 質疑応答、ディスカッションを通して、異文化理解やユニバーサルデザインを考える | 【予習】ハンドアウトの「英語教育と異文化理解」を読み、関連性を考える。(90分) 【復習】ユニバーサルデザインの講演を振り返り、英語教育における可能性をまとめる。(90分) |
| 8 | 吉野 康子 | 英語科学習指導案(1) (1) 中学校2年生「英語」:技術統合型の授業 (2) 学習指導案モデルの検討 | 【予習】テキストの第4章「英語科指導案」を読んでくる。(90分) 【復習】授業中に配布の学習指導案を比較・検討する。(90分) |
| 9 | 吉野 康子 | 英語科学習指導案(2) (1) 英語科学習指導案作成上の留意点 (2) グループで項目別授業実演の検討・準備 | 【予習】学習指導案のモデルを作成してくる。(90分) 【復習】項目別の授業実演をまとめる。(90分) |
| 10 | 吉野 康子 | 模擬授業(1) (1) 授業実演項目:復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動、題材の深化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 11 | 吉野 康子 | 模擬授業(2) (1) 授業実演項目:復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動、題材の深 | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) |

| | | | |
|----|-------|--|---|
| | | 化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 12 | 吉野 康子 | 模擬授業 (3) (1) 授業実演項目:復習、新語導入、 オーラル・イントロダクション、内容理 解、文法、音読、言語活動、題材の深 化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 13 | 吉野 康子 | 模擬授業 (4) (1) 授業実演項目:復習、新語導入、 オーラル・イントロダクション、内容理 解、文法、音読、言語活動、題材の深 化の分担確認 (2) 模擬授業後のディスカッション | 【予習】模擬授業の準備をする。(90分) 【復習】授業実演項目別に振り返り、まとめる。(90分) |
| 14 | 吉野 康子 | 英語教育の目的、指導目標、指導方法 の総括 (1) 学習指導案に関する質疑・応答 (2) 試験 | 【予習】この学期に学んだことを見直し、自分の指導案の課題を考 える。(90分) 【復習】学習指導案を振り返る。(90分) |
| 15 | 吉野 康子 | まとめ (1) 試験の返却、解説、フィードバック (2) 英語科指導法Ⅱの授業において考 えたことの意見交換 | 【予習】英語科指導法Ⅱの授業で考えたことをまとめてくる。(90分) 【復習】意見交換を踏まえて、最後に作成した英語科指導案を修正 して、次年度に備える。(90分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |